

バリウム検査による胃がん検診を受ける場合

検診を安全に実施するため、次の項目に該当する方は、胃がん検診を受けることができません。

1. バリウム過敏症の方（過去にバリウムにより体調不良を起こしたことがある）

2. 次の病気で過去に治療を受けたことがある方

- 消化管の穿孔（穴が開いた）・腸閉塞・腸捻転・大腸憩室炎
- 胃を全摘、小腸・大腸の手術をしている
- 開腹手術 3 回以上

3. 胃や十二指腸及び小腸・大腸の病気で治療中の方

4. 1 年以内に手術した方（腹腔鏡手術を含む）

腹部、心臓病、呼吸器疾患、頭部、運動器（椎体（背骨）、関節など）
※ 2 ヶ月以内に大腸内視鏡手術した方を含む

5. 重篤な病気または体調不良を起こす恐れがある方

- 1 年以内の発作（脳血管疾患、虚血性心疾患、不整脈、てんかん）
- 未治療または治療を継続していない糖尿病
- 脳圧亢進でシャント中
- 大動脈瘤（治療中または未治療の方）
- メニエール病（治療中または自覚症状がある）

6. 透析中、心不全、慢性腎疾患等で水分制限がある方

7. 呼吸困難や肺炎をおこす恐れがある方

- 過去にバリウムが気管に入ったことがある
- 普段からむせやすい方
- 喘息発作がある
- 在宅酸素療法中

8. 撮影台から転落の恐れや撮影が困難な方

- 自立歩行が困難または撮影台の手すりを握ることが難しい
- 検査のための体位変換（寝返り）ができない
- 体重が 130kg 以上

9. 妊娠中または妊娠していると思われる方

◆ 授乳中の方へ

検診後に服用する下剤の影響で、乳児に下痢がみられる場合があります。服用後 48 時間以内は人工乳に切替えるか、検査前に搾乳しておくことをお勧めします。

胃がん検診（リスク検査）

- 胃がんの発症リスクが高いかどうか、胃の粘膜の健康度を見る検査です。血液検査によりピロリ菌の感染有無と、ペプシノーゲンの値の 2 項目から萎縮の有無を調べます。
- この検査は、以下に該当する方は受けることができません。
 - ・過去にリスク検査を受けた方
 - ・プロトンポンプ阻害薬を服薬中の方
 - ・胃の切除をした方
 - ・ピロリ菌の除菌をされた方
 - ・腎不全の方



大腸がん検診

- 便潜血反応検査です。
- 採便は、受診日（提出する日）の 6 日前 から可能です。7 日以前の検体は検査不可となります。
- 胃がん検診でバリウムを飲んだ後は、便にバリウムが混じるといわれています。胃がん検診を受診した場合は、1 週間以上あけてから便をお採りください。
- 痔や月経などで出血している方や消化器の病気にかかっている方は、便潜血検査が陽性になることがあります。検診受診前に医療機関に相談してください。
- 検便の提出は 1 年度につき 1 回 となります。1 本しか採れなかった等の理由から追加で提出することはできません。

